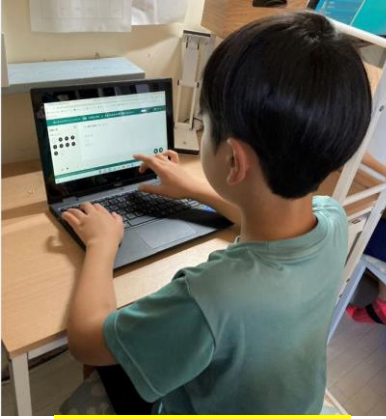


北海道の八雲町立熊石小学校 阿部 光一朗 先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。
 熊石小学校は、児童一人あたりの平均解答数がいへん多くなっています(令和5年6月時点)。MEXCBTを活用することによって達成を目指す児童の姿や、活用の場面ごとの利点や成果、そして今後の方向性などについて、これまでの経緯も含めて具体的にお話を伺いました。
 ■■■学校HPのURL <https://www.town.yakumo.lg.jp/site/kumaishi-es/>■■■

<p>活用の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・八雲町では、令和2年度から「一人一台端末」を活用した学びが可能となり、LTE回線により、児童が端末を家庭に持ち帰って「いつでも」「どこでも」学ぶことができるようになった。 ・令和4年度、ICTを最大限活用した「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を推進する中で、児童によっては紙媒体に手書きをするよりも、端末を活用した方が、学びに向かう力が高まることがわかった。 ・児童が主体的に個別最適な学びに取り組めるよう、校内研修の中でMEXCBTについて共通理解を図り、問題を選択・配信し、家庭学習においてMEXCBTを活用することとした。 <p>(問題活用の例) 2・3年生の学級で、主に算数の問題を配信。慣れるまでは1タイトルのみ配信していたが、今では2タイトルを配信し、学ぶ問題を児童が選択している。 「ほっかいどうチャレンジテスト さんすう 小学校2年生 100より大きい数」 「ちばっ子チャレンジ100 算数 小学校2年生 1000までの数」 「さいたま基礎学力定着プログラム 算数 小学校3年生ワークシート<3けたや4けたのたし算や引き算>」 など、授業に関連した問題を教員が選択して配信。</p>
<p>子どもたちの反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一問ずつ端末画面に表示されるため、集中して課題把握ができています。 ・自動採点によりすぐに結果がわかるため、学び直しができています。 ・手書きが不得手な児童が主体的に学び、達成感が自信につながっている。
<p>先生の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷せず、授業終了後にすぐ教師が意図した問題を児童に送信できるため便利。 ・わからない問題が宿題に出ると無記述で提出していた児童が、MEXCBTで出した問題を正解するまで何度も繰り返して学び直しをする姿に成果を感じている。 ・複式学級では、児童が自分でゴールを決めてやり遂げたい問題を選択できるようになり、主体的に学びに取り組めるようになったと感じている。
<p>今後の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元レベルで授業改善を図り、「指導の個別化」と「学習の個性化」によって、一人一人の児童の可能性を最大限引き出せるよう効果的にMEXCBTを活用したい。



放課後学童保育にて、MEXCBTで学習中!



担任が配信した問題を家庭で学習中!

※ 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。